

## お母さんの国「タイ」

ゆかりさんのお母さんはタイ人です。わかい時に、日本人のお父さんとけっこんして日本に来ました。そしてゆかりさんと妹をうみました。

ゆかりさんは一年生の時、学校で友だちにこんなことをいわれました。

「おまえのお母さん、タイ人やろ」

「タイへかえれ」

「びんぼう！」

ゆかりさんはつらくて学校へ行くのがいやになりました。がんばって学校へ行っても、おちついて勉強ができませんでした。

三年生になってゆかりさんは、次のような作文を書きました。

「サワリーカシ」これは、タイのあいさつの言葉です。わたしのお母さんは、タイで生まれたのです。小さい時から、よくタイのことを話してくれました。いつもわたしや妹に「日本には、なんでもそろっている。新しい物をもらったら、古い物をだいにしない。とつ

てもさみしい」

と言います。

タイも日本とかわらず、川も海も田んぼもあつて、米を作つてくらしています。バンコクのみなどから、たくさん米を、つみ出していました。

タイでは、田んぼをたがやすときは、スイギュウの力で、土をくできます。イネをだつこくしたあと、もみがらを、うちわをつかつてより分けるそうです。わたしたちの学校に学校田があります。こううんきをつかつてたがやし、コンバインでいねかりをします。お母さんも言つていたけど、タイは、まずしいから、きかいが買えないのかな。

タイの子どもたちは、七さいぐらいから、お父さんやお母さんの、てつだいをよくするそうです。タイの人は、かぞくみんな、おたがいに助けあつて、毎日生きています。

この間、お母さんの友だちから、タイの米を送つてきました。タイの米は、長ぼそくて食べたらとってもおいしかったです。お母さんは

「ひさしぶりに食べたね」

と、とつてもうれしそうです。あの米も、かぞくみんなで作つたのかな。

タイには、ゾウがたくさんいるそうです。スリンのゾウまつりには、百頭ものゾウがあつまります。お母さんに、ゾウにのつたことがあるか聞いたら、

「ゾウは、神様ののりものだから、ふつうの人は、のつたらだめなんだよ」と言いました。わたしは動物園でゾウを見たとき、大きいので、びっくりしました。一かいつてみたいと、思いました。

タイの男の人は、一生に一度おぼうさんになるそうです。三年生くらいの男の子が黄色の服を着ておぼうさんになっているしやしんがありました。クラスをつつちゃんやのりべえが、おぼうさんになったらと思うと、そうぞうしただけでわらってしまいました。のりべえは、とくににあうと思うな。お母さんの弟も、今、お坊さんになっています。それだけ、ほとけ様をだいにしているんだなと思いました。お母さんも、いつもぶつだんにごはんをおそなえています。緑色のほう石で作ったほとけ様もあるそうです。きれいだろな。

おおきくなったら、かぞくみんなで、タイへ行ってみたいです。そして、まだ、一度も会ったことのないタイのばあちゃんに会ってみたいです。ばあちゃんそれまで元気でいてね。



# お母さんの国「タイ」

## (小学校高学年向け)

### A 教材設定の意図

国際化が急速に進む今日、海外から日本へやって来る人の中では、アジアからの労働者や留学生の増加が著しい。ところが今それらの人々が日本での住みにくさに大きな不満を抱えている。それは日本人の偏った外国のとらえ方である。日本人にとって外国というときまず欧米を思い浮かべがちであり、身近なアジアの国々に目を向ける機会が少ない。アジアに対しては日本より経済・産業が遅れ貧しく劣っている国という偏見ばかりがはびこってしまっている。

このような偏見はどこからくるのだろうか。日本は明治以来、西洋に追いつけ追い越せと産業の発展、経済の成長をめざし、物質の豊かさを求め続けてきた。こうして日本人の価値観の中に、物質的に豊かであるか否かということが、そのものに価値があるかどうかを決定づける基準になってきている。そのため日本より経済・産業が遅れているアジアに対しては貧しい、劣っているというマイナスイメージでしかとらえられず、次第に偏見へとつながってきたのである。

この教材では、こうしたマイナスイメージが民族や国に対する偏見、そして差別へとつながっていくことに気づかせたい。それぞれの民族や国にも日本と同じように長い歴史の上に成り立つ文化があり、真剣に働き、学び、生きる人々の生活がそこにある。その人々の具体的な生活や思いに触れることで、初め

てその人々に対する共感が生まれてくる。その共感をおしてこれまでの偏見や差別から抜け出していけるのだろう。このことは部落差別をはじめとするいろいろな差別の問題に共通することで、ここに人権教育に取り組む一つの視点を見出すことができる。

### B 教材の解説

教材文にあるように、ゆかりさんは一年生に入っただけ、母親がタイ人であることを理由にいじめにあつて、学校で吐いたりするなどつらい思いをしてきた。同級生にはドイツ人の子どももいたが、その子の場合はその子というものはなかった。名前の呼び方からして呼び捨てにされるなど、明らかにアジア人に対する差別視の結果である。

その時期は母親に励まされ何とか乗り切ったが、いつもそのことに引っかけりをもったままの生活が続いていた。三年生になって、担任の先生は、そのことに触れていいものかどうか迷っていたが、秋の読書週間に図鑑でタイの国のことを読ませ、そのことをきっかけにゆかりさんと、タイを軸にしてつき合うことができるようになった。

読書感想文としてゆかりさんが書いたこの作文は、感想文というよりは、それまでの思いを一気にふっきるかのようになり、母が誇りに思うタイを、実に感性豊かにうけとめた文章となつて

いる。

日本は「古いものをだいにしないからとつてもさびしい」「タイの人はおたがいにたすけあつて毎日生きています」「あの米もみんなで作ったのかな」「それだけほとけ様をだいにしているんだな」など、タイの人々の考え方、生き方に共感しているし、また、ゾウの話、お坊さんの話など、異文化に対する興味にあふれている。そして「まだ一度もあつたことのないタイのおばあちゃんにあつてみたいです。ばあちゃん、それまで元気でいてね」という一文には、民族をこえた差別に動じない太い血のつながりを感じる。

さらに担任の先生は、この作文をクラスの子どもたちの中に返していくことよつて、ゆかりさんの母の国に対する思い、そして母に対する思いをしっかりとしましたものにさせていった。この後、ゆかりさんはクラスの中でも委員を引き受けるなど、積極的な面が見られるようになったという。

ゆかりさん自身は、一年生の時にいじめにあつたけれど、小さいころから聞いていたお母さんの国や、お母さん自身に対する誇りはまったく失われることはなかつた。ただ、まわりの先生や友だちがそのことに触れてもいいのかどうかという状態で、それがじつと心の中になまわられてきたのだろう。本を読んでもその感想を書くという、ちよつとしたきっかけでその思いがはき出され、さらにそれがクラスの友だちにしっかりと受けとめられたというこつで、確かなものになつたといえる。

この年の終わりに、ゆかりさんは家族や親戚の人たちといつしよにタイに行つてゐる。そしておばあちゃんにも会つてゐる。母の実家で何日か過ごし、まだしばらくいたいという気持ちに

なつたという。

夢にまで思い描いていたタイのおばあちゃんの家に行つた印象は、「日本と何も変わらない」というこつだつた。実は母から聞いていたタイの国は、母がタイを出てきた十六年前の姿であり、子ども心に貧しいと感じる姿であつた。しかし実際に行つてみると、母もびつくりするくらいの変化をとげ、ゆかりさんの目には「日本と何も変わらない」と映つたのである。

タイから帰つてゆかりさんがまたひとつ変つたこつと、お母さんは言つてゐる。それは決して「貧しくなかつた」というこつではないと思ふ。タイの国の人や文化にじかに触れ、そこに生きる人々に触れ、母の国「タイ」を自信をもつて誇れるようになつたからではないだろうか。

### C 指導上の留意点

- ① この教材の生まれた背景は解説に書いたとおりである。その背景も子どもたちに伝えることにより、ゆかりさんの作文を生かしてほしい。
- ② さらに発展させてその民族、国、暮らしを伝える資料を準備してほしい。そして子どもたちとともに調べてほしい。

### D 参考

・一九九三年度人權週間取り組み報告

池端憲子（富来町立熊野小学校：当時）

E 授業の展開例

| 教師の基本発問・助言  | 児童の活動・指導の要領  |
|---|--|
| <p>一 導入</p> <p>① タイという国を知っていますか。</p> <p>二 展開</p> <p>② 教材文（プリント）を読みましよう。</p> <p>③ 作文では、ゆかりさんは、タイの国のことをどんなふうに思っているでしょう</p> <p>④ ゆかりさんはなぜタイへ帰れと言われたのでしょうか。なぜお母さんがタイ人だといじめられたのでしょうか。</p> <p>三 まとめ</p> | <p>① 知っていることをあげさせて、タイという国に対して持っているイメージを出させる。</p> <p>② 教材を配って読む。</p> <p>③ 母の生まれた国としてのタイという国の文化や暮らしをありのままに受けとめていることをおさえる。そして、この作文をクラスで読み上げてもらい、クラスの友だちがしっかりと受けとめてくれたことで、よりそのことが確かなものとなって、ゆかりさんが積極的になってきたことを伝えてほしい。</p> <p>④ タイという国について知らなかったため、「貧しいから」「日本よりおかれているから」といったマイナスのイメージが出されると思われる。</p> |

⑤ あなたも思いこみで自分たちより劣っている、貧しくてかわいそうなどマイナスイメージをもっている国や人たちはいないでしょうか。また、どうしてそう思うようになったか。それは本当に自分の思っている通りなのでしょうか。

⑤ ここでいう人たちとは、国に限らず人種や民族など幅広くとらえればよい。また、どうしてマイナスイメージばかりでとらえるようになったのかをていねいに聞き出していくことで、いかに偏見をもつてみていたかを気づかせていきたい。そしてそのようなイメージをくつがえす学習へと発展させてほしい。

本教材を使った授業から

◆ 身近にはない話であるが、タイのことをあまり知らないこともあり、アジア人への差別というより、日本人じゃないということではじめられたととらえたようである。差別についてのいじめについて、学級の問題を取り上げながら考えてみた。お母さんのことが好きだから、いじめられてもお母さんを憎んだり、タイの国を憎んだりしなかったゆかりさんの気持ちについて、自分のことに置き換えながら考えた。

(羽咋)

